2

3

4

1

1 開放感あふれるオフィスには、さまざまなタイプのミーティングスペースがあり、社員の創作意欲を喚起している 2 松江市天神町商店街内で26年にオープン予定の《湯屋天神》 3 土曜夕方の情報番組《SOUP》は自社制作コンテンツの一つ。本社スタジオから放送 4 大橋川沿いの美しいロケーションに建つ社屋

01

LEADING COMPANY

山陰中央テレビジョン放送 株式会社

●情報通信業

テレビの枠を超えた無限の可能性に挑戦

フジテレビ系列ローカル局として、番組の制作・放送、イベントの企画運営などを担う《山陰中央テレビジョン放送株式会社》。総合的なコンテンツプロデュース力で地域を盛り上げている。

コンテンツ力生かし、幅広い分野で事業展開

島根県初の民間テレビ局として1970年に開局以来、山陰の発展に貢献してきた。番組制作力には定評があり、ロケバラエティ《かまいたちの掟》を始め、情報番組の《SOUP（スープ）》、2024年に再始動した《ゴルフパラダイス》など多くの人気自社制作番組を抱える。

一方、近年テレビ業界はネット広告市場の急成長や、多様なコンテンツの普及などで厳しい局面に立たされている。田部長右衛門社長（46）は現実を直視した上で、新たな可能性に挑む。「かつてテレビは〝メインディッシュ〟でした。今は〝調味料〟として、各種素材を引き立てる役割を担っていると考えています。多くの人に情報を伝えるには、今も信頼ある有効な媒体です」

24年夏から山陰最大級の音楽フェスを開催。「音楽の力で島根を盛り上げる！」をテーマに、長く続けていけるイベントを目指す。26年には松江市の天神町商店街に日帰り温泉と宿泊を備えた施設《湯屋天神》をオープンする。「土曜夜市の復活などで町に賑わいが生まれ、新店舗も増えた。温泉を起爆剤に観光客を呼び込むとともに、起業も推進し、地域を盛り上げたい」と田部社長。25年開設の旅行事業の専用サイトでは、地域密着メディアならではの視点と企画力を生かした希少性の高いプランを提案。また、中国向けの通販事業ではアウトバウンドも狙う。

開局以来初挑戦となる映画製作にも挑んでいる。全国から届いた500超のアイデアから、グランプリに輝いた作品の撮影を山陰で進め、26年秋完成を目指す。テレビの枠を超えた躍進が止まらない。

TSK
さんいん中央テレビ

山陰中央テレビジョン放送 株式会社

創　業　昭和45（1970）年4月1日
代表者　代表取締役社長　田部 長右衛門
社員数　126名（男77名　女49名）
本　社　島根県松江市向島町140-1

事業内容

放送事業、放送番組の企画・制作・販売、各種イベントの企画・運営、不動産関連事業、eビジネス事業など

勤務地（採用エリア）

松江市、出雲市、米子市、鳥取市、浜田市、広島県、大阪府、東京都

採用区分

新卒採用　キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有　日程が決まり次第、採用サイトとマイナビ等にて、順次情報公開。

採用担当者からあなたへ

「明るく元気にコミュニケーションが取れる人」、「挑戦意欲がある人」、「テレビにとらわれない発想力を持つ人」を求めています。テレビ局というと番組制作や報道などのイメージが強いですが、イベントの企画運営、通販事業など、テレビ以外の事業にも積極的に取り組んでいます。

総務局 人事部
原 ひより さん

採用に関するお問い合わせ先

0852-31-0160

公式サイトはこちら　求人サイトはこちら　マイナビはこちら

魅力的なコンテンツを創造する

ものづくりが好きでテレビ局へ 視聴者の心に届く報道を目指す

報道部
中村 友香さん（23）
2025年入社

記者としてさまざまな現場に赴き、取材活動を行っている。イベント取材では、ボキャブラリーの少ない幼児から言葉を引き出すのにひと苦労。「感想を尋ねても『面白かった』しか返ってこないので、他の表現が出てくるよう聞き方に工夫しました」。一方、事件や事故の発生を伝える原稿を書く時には、精神的に辛くなることも。「亡くなられたニュースなどは私も心が痛みます。でも使命と捉え、責任ある報道を心がけています」

好きなものづくりに携わりたいと思い就職活動をする中、コンテンツ産業の一つであるテレビ局に遭遇。「小さい頃から家族でテレビを囲んでいたし、昔のテレビ番組をレンタルするほど好きでした」。緑があふれ、開放的な雰囲気の社内にも惹かれて同社を選んだ。

当初は別部署を希望していたものの、今は文章を書くことに魅力を覚えるように。「取材時に響いた言葉を生かし、放送を通して視聴者に届くよう意識しています。もっと語彙も広げたい」。自ら特集を企画し、調査報道を手がけていくのが目標だ。

《かまいたちの掟》を機にIターン プロが集結し、高品質な番組を制作

コンテンツプロデュース部
江森 遥風さん（24）
2025年入社

バラエティ番組が好きで、中でもお笑いコンビ《かまいたち》の大ファン。大学まで東京で暮らしていた江森さんがTSKの存在を知ったのは、TVerで同社の制作番組《かまいたちの掟》を見ていた時だった。就職活動で各社を回る中、ふと番組のクレジットで見た社名を思い出してエントリー。縁もゆかりもない島根へのIターンが決まった。

《SOUP》と《かまいたちの掟》の制作などを担当。「目の前に大好きな二人がいて興奮しましたが、仕事中なのでサインも握手も我慢しました」と苦笑いする。現場の進行や演出のサポートなど業務は幅広く、ロケ収録では機材などを運んだり、小道具を用意したりするほか、出演者やスタッフの体調のケアも担う。スタジオ収録では、出演者へのカンペ出しも。「台本を読み込み、流れを意識して適切な時に指示を出せるよう意識しています」

放送時間はわずか数秒でも、収録には数時間かけることも少なくない。「プロが集結し、手間暇かけて高品質なものを生み出せるのがテレビの魅力です」